

泉

第21号
昭和57年11月1日発行

発行所 東京都中野区本町 6-38-1
郵便番号164
電話 (03) 381-0196
振替口座 東京9-188318

東京文化学園同窓会

発行人 白井スエノ
編集人 青木純子
印刷所 篠塚印刷株式会社
(非売品)

母校の発展に喜びと感謝を

会長 白井 スエノ

私共は母校ならびに同窓会の発展を願う一念から、又々本年も石井ふく子様のご好意によりまして今日の会を企画いたしましたところ、このように多数ご協力いただきまして、只々ありがたく感謝感謝でございます。

学校側のご協力は申し上げるまでもございませんが、皆様の数のご協力によりまして、母校の創立五十周年記念事業も、計画通り昨年夏の体育館竣工により予定



通り終了されました。教育はすばらしい先生方のご指導と共に、施設設備の必要なことは今更申し上げることもないことでございます。これによりまして、後輩の皆様方の上に又々輝かしい光を添えていただくこと信じ、皆様のご厚意に感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

しかしこれで事足りたというところではなく、一層のご発展を願うもので、今後共何卒よろしくお願ひ申し上げます。

昨年同窓会にご出席いただきました方々には、各校舎並びにあのすばらしい体育館をご覧いただきお喜びいただいたのでございます。ご都合によりましてご出席いただけなかった方々は、おついでに折是非母校にお立寄り下さいまして、皆様のご芳志がその総ての

一端を担っているのだという喜びをかみしめていただきますようお願いいたします。

なおここに申し添えさせていただきますことは、創立五十周年事業の募金から又諸行事を企画いたしますことに、役員幹事の方々の涙ぐましい程のご活躍をいただいたものでございます。

又それに一丸となつてご協力いただきました皆様のお姿を拝見すごとに、これぞ私共の誇りといましております東京文化の教育の賜であると痛感いたします。この伝統あるすばらしい教育をお受けいたす機会に恵まれました私共は、何と幸せでございましょう。

皆様、このような教育を一人でも多くの子弟に受けていただくために優秀なお子様を母校にお送り下さいますようお願いいたします。お礼の言葉にかえさせていただきます。

(これは六月六日の観劇会での会長挨拶をまとめました。)

その空気が肌で感じられ勇気づけられます。

終戦直後、豊納先生に母校のためにと、当時では得がたい毛糸の販売を頼まれ、もんべをはぎ、長男を背にして、同級の友達の一軒一軒を自転車に乗って尋ねたことも夢のようです。久しぶりに会ったうれしさ、そして母校を思う気持ちで、恥も外聞もなく、よくできたものと今は思っています。

森本静子先生の念願による各校同窓会の合併問題(年代の差のため(の食い違い)、立派な歴代会長の逝去など、その都度大きな障害にぶつかりながらも、お互いに励まし合つて過ごして参りました。

現在の同窓会は、各校の幹事長、そして各校の顧問の先生方、沈着な会長の下に、この二、三年は素晴らしい発展を見るようになりました。何をすることも土台がしっかりできて成長していくものと思ひます。

また、よその立派な学校を見ますと、皆、同窓会の活躍には素晴

同窓会会館を建てましょう

同窓会副会長 漆 くに



年の流れは早いものです。母校も年々すばらしい発展をし、

このごろ思うことは、豊納先生、静子先生の夢であった同窓会館設立の実現です。各理事の賛同も得、ことあるごとに、三十人位の会議室が必要とか、事務室も是非ととか、小さい書庫がなければならず、いろいろな意見が出ております。宿泊ができるように、あるいは喫茶室を設けたらと、夢はどんどん広がっていきます。

七月十二日には、学園の大久保理事長、落合常務理事及び森本事務長にお忙しい中、時間を割いていただき、私どもの話を聞いていただきました。学園としても同窓会会館設立は学園運営上、さまざまな検討が必要と思ひます。今すぐ学園用地をお借りしてとか具体的な計画はととも無理とは思ひますが、今後の校舎や桃園寮改築の折には同窓会会館を建てることを検討してみても下さるとのことです。

年を老いと一日一日が勿体ない思ひます。ぜひ同窓会会館を実現したいものです。

通学路あれこれ

今年「通学路あれこれ」と題して、五十余年にわたる母校への通学路の様子を、同窓する皆様に書いていただきました。歴史の流れの中で、通学路の変わっていく有様がおわかりいただけると思います。

四十年あまりたつて

昭和十、十一、十二年を専門本科で学ばせていただいた。今「国電」、当時「省線」で私は中央線三鷹から、同級の价江さんは吉祥寺から、弓削さんは阿佐ヶ谷から通学した。下校はたいいてい三人一緒。朝は中野駅で下車、徒歩で五十米ぐらいいはまっすぐ大通り、そして右斜めに細い小路を住宅地へ入る。何度か曲ってまた大通りまで二、三十分要したと思う。この大通りには「鍋屋横町」が隣接していたが、この地名は今もあるだろうか。

昨年、体育館落成の折に、何十年ぶりで昼間に学校を訪問した。街並も、家も、交通も変わってしまった。大通りから学校への入口がどうしても見つけれない。しかし、一軒だけ昔のままの家を発見した。校門に向かって左側手前の「小穴隆一」の表札の洋館である。昔は小さい画家という噂の住人にふさわしい、個性のある家だっ

た。すっかり古びて見る影もなく、会ったこともないが、御健在なのかしらとしばし。

小穴家のある、校門までの直線の道に入る大通りの右側に、小さなミルクスタンド、そば屋があった。小さなトーストに一杯のコーヒ。時ならぬ雪に、白足袋を濡らして入った熱いなべやきうどんが忘れられない。

价江さんと私は銘仙のたもとに袴。弓削さんはアイボリーの絹のブラウス、茶のジャンパースカート、前髪をカールしてだんぜんお嬢様。あの頃は良かった！ 若かった！

昭和十三年に卒業して、四月からお茶の水の文化アパートメント事務所にお任せした。大先輩の新井田様、芦田福子様、森田幸子様、御指導をうけ、お世話になった。ミセス森本の隣りで仕事をいつかっていたとき、巻紙に筆の長いお手紙を読まれたあと、私に見せて下さった。价江さんが急死なさった事情を細々と御母堂が認められたものであった。真先に森本

先生のお仲人でうらやましい結婚初産の直前に！長いこと私にはショックであった。高知出身の西川笑子さんも郷里で若くして亡くなられたとあとで伺って、何とも痛ましく、どうしてどうしてと繰り返す。弓削さん、お元気でいらして、きつと会いましょう。

たった三人残ったクラスメート。すぐ上の八期の皆様、同窓の皆様、お健やかに、御多幸を念じ上げます。

専門本科十三年卒
徳永 セツ

電車通学の思い出

首から紐でつるした定期入れをさげて電車通学する。そんな姿に憧れていた四十六年前、念願かなって経専高女へ入学と同時に、小田急線の代々幡上原駅(今の代々木上原駅)から西武線の天神前まで電車通学することになった。

当時の小田急線は、現在の複々線、地下鉄乗り入れなどからは想像だにできぬ手動式の扉で、車体も今より小さな電車であった。新宿から三つ目に山谷という駅があり、そこから一学年上の山川姉が通っておられた。他に経専へ通う人はなく、私達姉妹だけだった。何時も同じ時間に同じ扉から降り降りする人は決っていて、毎朝顔を合わせるが、それでいて一向に

親しくなるわけではなく、会釈すらしなかったような気がする。

あの人口三十万人の超高層の建ち並ぶ副都心新宿辺も、当時は静かで小さかった。単線運転の路面電車は当時は西武電車と呼んでいたが(その後市電から都電になり廃止された)、新宿駅から荻窪駅まで青梅街道を通り、それに並行して青バス(後の市バス、今の都バス)が走っていた。乗り場は東口から大ガードよりの所だったように記憶しているが、戦後全く様相が変わり、わからなくなってしまう。

駅を出るとすぐ左に見える、葛におおわれた精華高女を横目に学校方向へ行った。新宿から経専への通学者は多く、中野高女、堀越立正学園、女子美の人達とも一緒だったが、声を掛け合うこともなく、それぞれがまたまって席をきめ、楽しいおしゃべりで何時間も車中は賑やかだった。車中はお友達のおしゃべりが主で、窓外の眺めや変化には無関心だったが、今でも思い出すのは淀橋浄水場の浄水池の水面が生垣越しに見え、今と変らぬ成子天神、何時もきれいな花が咲いていた中野坂上ロータリー等である。

橋場という停留所では、単線運転のため上り電車と交換するので停車することが多かった。遅刻を気にして発車を待っている時に先生方が乗られた青バスが後から来

て走りぬげると、車内はわあわあがやがやとさわいだ記憶がある。ともかく今の電車と違い、ラッシュ時でもそれ程の混雑はなかった。今も昔も変らないのはスカート切り、カバンを持った手を握られる等の痴漢である。

交通費の記憶は全くないが、電車の定期代は非常に安かった。青バスの回数券は相当高く、学生身分ではバス通学はできにくかったのではなかったかと思う。

楽しい思い出は、自分の心の宝箱に大切にしまっていたものだった。改めて思い出してみると、余りにも大事に奥深くしまし過ぎたのか、しまい忘れて思い出せないことが多いのが残念だ。

高女十七年卒 河野 寿子

新渡戸先生誕生二二〇年

文久二年にお生まれになった新渡戸先生の二二〇年目の誕生日にあたる九月一日に、「誕生二二〇年のつどい」が中村若手県知事、福島ジャパントライム会長らを代表世話人としてプレスセンターホールで開かれました。

「新渡戸稲造の生涯と国際外交」と題する講演のあと、懇談のひとときを過ごしました。

本会から白井会長が、学園からは高橋静枝教授、北原由夫教授、森本事務長が出席しました。

武蔵野のおもかげのなかを

五十路の坂を越え、今やらなくてはならないことも忘れてしまう昨今に、四十年代の娘時代の通学路の思い出を原稿を依頼されまして、断片的ではありますが、記憶をたどって書きつづりました。

少々間違いがございますかもしれないが、おゆるし下さいませ。

その当時私は武蔵境に住んでおりました。電車で通学するのが楽しみで当校を選んだ程でした。現在とは違って武蔵野のおもかげをこの寸縁が多く、車窓から富士山等もながめられた程でした。電車も省線電車と言って車体も黒っぽい色で四人掛けでした。当駅からは少数の方が登校しておりましたので、時間を待合せし一緒に通学しておりました。中野まで二十分位と記憶しております。

三鷹 吉祥寺、西荻窪、荻窪、阿佐ヶ谷、高円寺と上級生や下級生が同じ車両に乗りこんでまいります。現在のように満員電車ではなかったのです。空席も取っておいで上げたこともありまして。車内の中は当校の専用電車みたいになり、色々と語り合ひのが楽しく、笑いがたえませんでした。試験の時など上級生に教えていただいたこともございます。又、冬になりますと毛糸編みが始まり、私は不

器用で、ソックスのカカトの所がでないで、いつも編んでいたいた想い出もあります。

中野の駅からの徒歩も列をつくって通学しました。角にあったカシヤマ写真館、今どうなっているでしょう。五年間、同じ道を通学しましたが、楽しい思い出だけのことっております。

高令者社会で平均寿命ものびましたので、これからは健康に留意し経専高女の卒業生らしく、あかるい心で、いそむ両手、働く頭この3日精神だけは永久に忘れずに生涯青春の気持で過したいと思っております。

高女十七年卒 (旧姓西田) 広田 聡子

有意義だった友達との会話

東京文化学園へ通うのには、今では東高円寺駅から中野駅を利用する生徒がほとんどのようですが、私の場合、高校一、二年の頃はバス通学でした。吉祥寺と中野を結ぶバスの中間点にあたる杉並の宮前から通学しました。

朝は七時半頃なのですが、始発から何本目ののともすいたバスで、乗っている人もいつも同じ顔ぶれ……という、どことなく温かい雰囲気のあるバスでした。乗ってから降りるまでずわって行く

ことができましてしたので、通勤通学ラッシュは自分にはあまり縁のないもののように思っていました。ところが、困ったことが一つだけありました。それは、時間どおりにバスが来てくれないということでした。バスが早く来すぎて乗りおくれたり、いくら待っても来ないで三十分近く待っていたこともありましたが、他の人と比べれば楽だったと思います。

高三になって南砂町から中野駅まで東西線を使って通学するようになった私は、そこで初めて朝のラッシュを知ったのです。バス通学から見ればたいへんなものでしたが、慣れるに従い苦痛ではなくなりました。

中野駅から友だち数人と連れだつて学校まで歩きました。夏はカンカン照りの下を、冬は木枯らしの中を、友だちと様々な話をしながら歩くのです。試験前になると、それぞれ教科書を開きながら、問題の出しあいや教えあいです。バスに乗ってしまえばすぐのところですが、中野駅から学校までの友だちとの会話は、今になって思えばとてもなつかしく有意義な時間だったように思えます。

先日、学校に用事があり、その道を通る機会がありました。何一つ変わっていないその道を本当になつかしく、うれしく通りました。通学路……それは校舎と同じ位、様々な想い出が詰まった

場所なのです。 高校五十七年卒 森 孝子

思い出の通学路

当時「経専中」と呼んでいた東京文化中学校に私が入学したのは、戦争の傷あとの残る昭和二十三年でした。着る物、食べる物もまだ充分ではなく、世の中も落着きがありませんでしたが、中学生になった私達ほどに毎日楽しくて元氣よく通学していました。

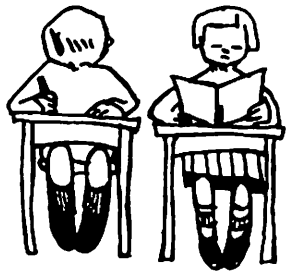
中野、杉並もまだあちこち空地があり、中野区役所も南口で、大きなビルなどはほとんどありませんでした。従って人口も今よりは大部分なかったと思います。中野駅南口商店街の丸井の先を右に入り、次の通りを横切って住宅地に入ると、左に時代がかったアパートがあり、国語の安福先生が住んでいられるとのことでした。その先に駐留軍に接収されている洋館があり、きれいな芝生にコリイがいました。それから大通りに出て暫く歩き、左の道に折れます。青梅街道に出る前にお風呂の燃料にする古材木の置場などもあったようです。

朝はいつも同じ時間に同じ場所を通りますから、すれ違う駅へ向う人達はほぼ同じで、顔なじみということになりましたが、三十数年経った現在でも思い出せる顔もありません。

駅から学校まで一人ということではなくて、必ず誰かと一緒にになり話しながら歩きました。中学生にとっては何もかも新鮮なことはかりで、友人の話も上級生の話も全て興味深く聞きました。

その頃学校では、音楽朝礼とか、上級生の話を聞く会とか、先生方による課外の音楽会などもあり、中高全員で講堂に集ることも多かったのです。上級生とでも結構共通の話題があったのだと思います。勿論「お説教」などするこわい上級生もいらつしやいましたが。十五分の通学路は私にとって友人とのコミュニケーションの場であり、とても貴重な時間だったのだと思うのです。今はやりの「登校拒否児」ではなく、「下校拒否児」でした。

高校二十九年卒 神西 知子



通学路あれこれ

大崎からの通学路

前髪を明かるく上げ二本のお下げにして、セーラー服にエンジのネクタイを結び、さっそうと通った道は、今から思うとかなりな距離でした。まず家を出て山手線の大崎駅まで歩き、新宿駅で中央線に乗り換えて中野駅で降り、丸井の横の道を学校まで歩きました。

もう二十七年も前の話になります。三才違いの姉が居りましたので、「姉妹と別々の学校へ通うのはおかしい。同じ学校へ行きなさい。」との父の言葉で、あまたの学校を袖にして(?)中学、高校、短大と八年間も東京文化学園のお世話になりました。私の長男が小学六年ですが、とても甘えん坊で、半年後には私が学校へ通った年齢になるとはとも考えられません。私とて姉という強い味方があったから通えたと思います。

中学三年からソフトボールのクラブに入り、帰りが遅くなることが多く、停留所の近いバスを利用して新宿まで行ってから山手線で大崎へ帰るようになりました。そしてそのコースの方が幾分か早いので、中野駅まで徒歩というのはめったにしなくなりました。青梅街道に地下鉄がなく都電が優雅に

運行していた時代ですから、時にはバスを都電に替えてみたりして楽しんでたように思います。

長い間の学校生活には色々事々起こしました。その中でも短大の時、六大学野球のシーズンになると土曜日授業を抜け出して神宮に通ってました。もう時効と思いますが、その事が先生から姉へ伝わり、両親をろって武也先生の所へ謝罪に行き、当時の「女学生気質」を先生から説かれ慰さめられて帰って来たそうです。話が通学路から横路へそれたようですが、この球場への路も私には忘れ難いものです。

主婦になった現在、家政科の講義を受けたとしたり、ポイントをつかめるとも熱心な良い生徒になれる気がしますが……。

高校三十七年 短大三十九年卒
(旧姓石井) 福田 睦子

新井薬師からの通学路

私は中学から医技を卒業するまでの八年間、中野の新井薬師の家から学校までバス通学してました。中野駅が丁度中間地点で、そのころ家の方から代田橋行に乗ると直通で行けました。このバスは本数が少なく、又雨の日にはとく遅れがちで遅刻寸前もよくあり

ました。バスばかりのせいではないのですが、遅刻をしてしまったらどうしようというあのあせりはとてもいやなもので、バスに乗っていても足が動き出しそうな落着かなさ、停留所から息せき切って走っていたものでした。

何とか間にあった時のほっとした気持は何ともいえません。こんな思いは二度とするまいと、もう少し余裕を持って出ようと反省するのでした。

高校生の時、私は運動部に所属しており、放課後はもっぱらクラブ活動にハリキってました。練習が終わって家に帰るころはお腹はペコペコ、悪い事とは知りつつ仲間数人とパン屋さんで立ち食いをした経験があります。中央線の見える中野駅に近い小さなお店でした。お店のおばさんもあまりよい顔をしていませんでしたが、あの時はほうばったあんパンやカレーパンのおいしかった事、あの味とはびぎりでした。

まるで色気のない思い出話ばかりで一つや二つ通学路にまつわるロマンス的な話はないものかと考えてみましたがこれがまるつきりなのです。医技のころはなおさら実習もあり帰りが遅く、そんな時友達と道々将来の事や理想の男性像など人生論をぶったり、今読んでいる本の内容やらテレビの話までとりとめない話題に花が咲き、

「あらもう中野駅?」なんていう事になってしまふのです。バス通りをぬって走る裏道ですが、今はだいたい家並も変わりましたが、今はいぶかやいぶかなくさん建ち、その頃建ったマンションは小さい古ぼけて見えます。古く小さい小間物屋さんもなくなくなりました。目にうつる様子がどんなに変わっても、友と楽しく歩いたその小道の思い出はいつまでも深く私の心に残っています。

高校四十四年医技四十七年卒
(旧姓照内) 池田 延江

社会に出てみて

最近、紺のセーラー服にエンジ色のネクタイ姿の子に会うといつも、なつかしいと思うと同時にかわいらしいと思つて、つい見とれてしまう。多感なその年頃は、目がいきいきと輝き、制服を通してははちきれんばかりで、見ているだけで実に新鮮な感じを受ける。

私もあのセーラー服姿で学校に通っていたのかと思うと、ふとなつかしい思いでいっぱいになる。私の場合、通学路といっても「歩いて十分。走っても五分程度というあまりにも短い通学路であった。私はその道のりを、セーラー服の線が二本線から三本線まで、つまり六年間通った。

その当時クラスの中で徒歩通学

という人がなく、たいい電車通学をしていた。そしてかわいい絵のついた定期入れに定期を持つことにひどく撞れていた。というのも、改札で定期を見せることで何か大人の気分になるような気がしたからかも知れない。また混んだ電車に乗ると、やはり、混むこともないし、自分の好きなように歩けるこの道がいちばんいいと思った。

私は今現在、中学、高校の頃から振り返ってみると、私の通学路と同様に今までの好きなように歩いてきたと思う。今思えばあの時の大学受験はひどく苦しかったが、自分の道を自らの足で歩いたことにたいへん満足している。

いったい私を支えてきたものは何だったのであろうか。その一つに私はこの言葉を掲げたい。「意志あれば道あり。」この言葉は私のいちばん好きな言葉で、何度となく挫折しそうなった時に底力のような働きをしてきた。

今私は社会人一年生。会社には慣れたが、仕事はまだまだ半人前だから先、努力はずつと続けなければならぬ。自分の好きなように歩ける自分だけの道。その道を一歩一歩見極めていくことは、今まで以上に困難になるかも知れないが、小さくても立派な道を築いていきたいと思う。

高校五十三年卒

田中 昭子

観劇会 「結婚」をみて

六月五日、今年も恒例の観劇会が日比谷の芸術座で催されました。観劇は赤木春江さん、三田佳子さん、新克利さん等の熱演で「結婚」でした。舞台の運びも楽しく観ましたが、なお嬉しかったのは在学当時の先生方の顔が、あちらこちらにお見かけ出来た事でした。中でも旧姓・大月くに子先生(現：湊先生)のお元気さは抜群で、先生のお願いに接する度に「吾等もこれではならじ……」のファイトが湧いて参ります。何時も何時も機関車の如く、同窓会ならびに高女の同窓生を懸命に率いて行つて下さる御努力には只々頭が下ります。



又、客席のあちらこちらに見えらなつかしく嬉しいアノ顔、コノ顔。見交わした途端に、憶いはいへんに、四十余年の歳月を吹き飛ばします。何時、何処で出会つてもなつかしくて嬉しくて楽しい顔、顔の上級、下級タテのつながりはなんとすばらしい事か！

事業部だより

観劇会 収支	
収入	
切符売上745席	3,269,600 円
寄付金	20,000 円
支払	
芸術座支払	2,369,510 円
諸費用	117,400 円
差引収益	811,690 円
	(事業部)

毎年十一月二日、三日に開かれる学園祭には同窓会でも売店を出しております。昨年は二色弁当とロールサンドのほかに、ループ人形とポップコーンを販売いたしました。

例年人気のある二色弁当とロールサンドはもちろんのこと、ループ人形は仕入れが少なかったためまたたく間に売切れ、ポップコーンも売店の前に行列が絶えなほどの売れ行きでした。皆様のご協力に感謝いたします。

今年も十一月二日、三日に学園祭売店を出します。正門を入った所が同窓会の売店です。昨年同様にご来校をお待ちいたします。

高女十五期(十七年)卒業の皆様、消息を左記までご連絡下さい。
伊藤淑乃(旧前原) 〒一六六
杉並区和田三十一一―一十一
片岡道子(旧阿部) 〒一六四
中野区中央二一五十九―十七

「経専」を出て 思うこと

学園をもう少し勉強したいと思いい、旧東京女子経済専門学校英文科に入学させていただきました。

当時は我が家が疎開中でしたので、村上先生(現・岸先生)にお願いして桃園寮に入れていただきました。桃園寮は森本記念館で、立派な広い洋館でした。最初の部屋には、経済科三年の山田道子様、英文科一年の同級の富岡三重子様、熊田綾子様、私ともう一人いらしたのでしたが、覚えていません。

田舎から帰寮しますと、車内でお弁当が食べられなかったと、おにぎりを分けあつてご馳走になったことが懐しいございます。

誇り高い森本厚吉先生、心の優しかった静子先生のお膝もとで学園教育の御指導を賜わり、これといった苦難苦痛もなく学ばせて下さいましたことに感謝しております。

今年一月末ごろ、偶然に村上先生に丸の内線の車内でお目にかかり、お話をいたしました。新宿駅で先生が下車なされ、車内にいた私を振り返って行かれました。在学時代とお変りないお姿でした。これほどもない御恩に背を向けた切りで、皆様がなさっているから私はいよいよ自分は何と申し訳ないことです。

良く学び、良く遊ばせて下さったことへの報恩感謝をさせていただきますことを、お誓いさせていただきます。

専門学校英文科二十一期
菊地 みのる

募金ご協力ありがとうございます ついでに

母校の創立五十周年募金は、皆様のご協力により、二三〇万円余りの巨額となり、関係者一同感謝にたえません。

募金は一度締切りましたが、前号以後のご協力いただいた方々のお名前を記し、感謝の意を表します。

- 菊谷 ひろ 原田まゆみ
- 小沼美恵子 カンヨウコ
- 永野貴美子 小野田登貴恵
- 片山寿美子 藤井 幸子
- 大川 公江 八谷 幸子
- 浅井 節子 竹谷 純子
- 西川美江子 高橋 洋子
- 萩原 正代 塚田トシエ
- 永山 高子 清水 啓子
- 短大五期ABC組
- ナカニシトシコ
- エンドウヤスヨ
- イチキカヨコ
- オハラカンコ
- ノセケイコ

募金総額 (順不同)

二三、三〇四、一二七円
昭和五十七年七月三十一日現在

支部だより

北海道支部 帯広支部

去る六月十九日初めて森本先生、小熊先生、そしてお久しぶりに中川先生、白鳥先生をお迎えして、札幌の中心街に新しく出来たホテルアルファに於いて六時より同窓会の宴を設けることが出来ました。

丁度北海道神宮のお祭りも終り、有名なアカシアの並木道や、大通公園の美しいリラの花も終りを告げ、お見せ出来なかったのが大変残念でした。しかし久しぶりに諸先生方の学校のあり方や教育論などを伺い、心身にとっても心強いものであります。

学長先生も早くお元氣になられて、北海道までいらして下さる事を、皆で心よりお待ちしております。

支部長 玉木 美佐

出席者「札幌」

木田恵美(佐藤) 専四 太田妙子(高松) 専一五 田辺長子(佐藤)

専一五 本間佳代(大野) 専一六 玉木美佐(玉木) 専一六 入谷幸重 短四 清水麗子(吉沢) 短八

和田奈加(鷹田) 短八 岡本道子(鈴木) 短九 小田和子(松井)

短九

「室蘭」

今井喜多(佐藤) 専一〇 児玉成子(向瀬) 短四

「帯広」

川上幸子(若林) 短一 川上春代(掛井) 短八 福井京子(川上)

短八 西田洋子 短一四 岡田睦(桑本) 短一〇 大下敬代 医一

〇 浜中恵子 短一四

「小樽」

大橋由喜子(対島) 短七

「深川」

斎藤繁子 短八 大橋美智子(斎藤) 短二一

岐阜支部 愛知支部

どこへも御案内することが出来ませんでしたが、翌日斎藤さんの御案内で短八期の清水さんが経営するあかしや幼稚園の運動会に先生方が御出席下さった事を知って、なげかますます心温まる気がしたのも、とても嬉しい事でした。

去る五月十六日、愛知県支部は岐阜県支部の方達と御一緒に、定光寺の料亭「千歳楼」で支部会を開催しました。名古屋駅より東北に中央線で四十分程の所で、深い

深谷に囲まれ若葉の美しい地です。母校より中川悦先生と森本晴生先生が御出席下さいました。

年一回、岐阜、愛知と交代でお世話しての集まりですが、学校より先生方をお迎えするのは久しぶりのことでした。又、前もって中川先生より、新しい方達の住所をお知らせ下さったので出来るだけ連絡をとり、初めての方、常連の方等、総勢十九名の出席で会が始まりました。

千歳楼の川魚料理、山菜料理に舌づつみをうちながら、先生から学校の近況報告をお聞きしました。私達も学校を卒業し一年目の方、何十年たっている方と年齢の開きはあっても、誰れしも母校の発展を願っております。先生方より充実した学校の教育内容、新体育館、整った設備の様子等をお聞きし、

この機会に新しい同窓生の名簿も出来上りましたので、県内に転勤等でお住まいになりました時は、ぜひ支部の方に御連絡下さいませ。とても和気合々の楽しい会です。

出席者名 支部長 野田 梅子

〇岐阜支部

堀江静世(小幡) 専二 杉原花子(井沢) 専三 林 志づ(大沢)

専五 友枝朗子(両角) 専一二 加藤久子(丹羽) 専一二 池谷倫子(井上) 専一六 伊藤好子(可児) 短一八

〇愛知支部

野田梅子(甲野) 専一 長瀬寿美恵 専一一 江野真佐子 専一一

朽木美代子(上田) 高女一六 鈴木泰子 高校三四 高橋秀子 高校三九 山城 子(尾崎) 短五

大館修子(関) 短八 成川幸子 短一一 大沢弘子 短三



ホテル・アルファにて合同支部会



千歳楼での合同支部会

福岡県 佐賀県 支部 長崎県 山口県 支部

台風十三号が通り過ぎた八月二十九日に、第六回鹿児島支部同窓会が松木副学長先生を始め森本事務長、小熊先生、中川先生、白鳥先生の五人をお迎えして、暑さ厳しい最中南端鹿児島島の地で、開催出来ました。本当に嬉しい事でございました。

松木副学長先生の御挨拶の中で学校の近況の御説明が有りました。私達の卒業後、学校はますます発展し、設備も想像出来ない程充実し、教育内容も大部変わってきたとお話を承り、胸がふくらむ思いでございました。

今回の出席者は十九名で、宮崎



城山観光ホテルでの合同支部会

支部長樋口様、中村様の御二人も参加して頂き、緊張の中にも懐しさで一杯ございました。自己紹介を兼ねてのテール・スピーチでは、それぞれ学生時代の思い出話や、お子様の自慢話、子育ても終り余った時間をどの様に過ごして良いのか、今後の先生方を模範中だどのお話などが飛び出しました。

それに対して中川先生から、東京文化学園の教育が良かったので、立派なお子様を育てる事も出来、又余暇の時間も作る事が出来るのだと、おほめの言葉を頂戴したり、「仏の中川先生」になられたとお話等には、皆様、爆笑や喝采でとてもなごやかな会でございました。中には栄養士の道に自活し大いに社会に貢献されていらっしゃる方もいらして、東京文化学園の火は、社会にもともし続けているのだなあと思いました。

頂いた学園案内をめぐって見ますと窮屈な制服もなく、学生がはつらつと自由を満喫している様子で、私達の学生時代と比較してちよつと羨ましい気持ちになりました。でもその当時では近代的教育を受けていたのだと、痛感しております。

それぞれ去り難い思い出を抱きながら、時間の都合で四時に解散しました。あと先生方を桜島に案内致しました。当日は生憎の曇天で、太陽の輝く青空に雄大にそ

びえたつ桜島の景色が見られませんでした。噴火で流出した溶岩には感嘆されました。

最後に学園の発展をお祈り致します。 副支部長 吉牟田 知子

鹿児島県 支部 宮崎県 支部

台風十三号もどうやら無事に過ぎた八月二十八日土曜日、福岡に於て同窓会支部が開かれました。

学園からは松木副学長先生、森本晴生先生、中川悦先生、白鳥雅子先生をお迎えして、支部同窓生は福岡県八名、佐賀県三名、長崎県二名、山口県二名の十五名が集まり、それに開会直前に小熊先生が突然お越し頂き、合計二十名のお集まりとなりました。

会場は福岡市内中河の那 川畔の緑にかこまれた静かな料亭「仲柳」の広間で、純和風の落ち着いた雰囲気でお座しました。

久々にお会いする人、初めてお会いする人といういろいろで御座いましたが、やはり同じ東京文化の卒業生という事で親近感があり、いろいろ昔話や近況等お話ししてお話し致しましたが、とうてい語りつくせない感じで、本当に時間の経つのが早過ぎて残念で御座いました。

今年の夏は気候が大変不順で特に九州では水不足の後大雨となり、長崎の水害では同窓生の方も被災

され、本当にお気の毒で御座いました。当日出席されなかった方達からもお便りを頂き、次回は必ず出席したいとのことでした。意外に近くに同窓生がいらっしゃる事も分りましたので、今後はもう少し緊密に相互の交友を計り度いものと、皆さんでお話しいたしました。

支部会訪問と支部長会

この前武也学長先生をお迎えして支部会を開きましたのは、もう十数年も前の事で御座いましたので、今後はせめて三年に一度位はと声が出ますと、若い方達は「毎年して下さい。」との御希望が多かった様で御座いました。今後は各県支部長がもう少し連絡し合っ、本当に毎年皆さんとお会い出来る様にしたと思います。お互いに横のつながりが強くなれば、

支部によって活躍の状況が異なりますが、学園ではできるだけ多くの支部を訪問し、地方在住の同窓生とのつながりを太くしていきたいと考えています。

昨年から始まった支部長会は、同窓会総会の前日に各支部長にお集まりいただき、学園の現況をよく見てご意見を伺おうとするものです。今年も総会のない年です。今年五月頃予定の同窓会総会の前日に、二回目の支部長会が開かれるよう計画しています。

支部長の皆様が都合の悪い場合には、代理の方にお越しいただき、母校と同窓会の発展のためにご協力いただきたいと思います。



「仲柳」での合同支部会

あなたの良き後輩としてふさわしい 学生・生徒・児童・園児のご紹介を!

“VERITAS VOS LIBERABIT”

「真理は汝等に自由を与う」(新約聖書ヨハネ伝8章)



創立者
森本厚吉先生



初代校長
新渡戸稲造先生

沿革

- 昭和2年 女子文化高等学院を東京市本郷区元町(現文京区本郷二丁目)に創立する。役員は理事長に法学博士森本厚吉、理事・法学博士吉野作造、理事・医学博士橋本寛敏、学院長には森本静子が就任する。
- 昭和3年 専門学校令により女子経済専門学校と改称する。初代校長に新渡戸稲造、理事長兼副校長に森本厚吉が就任する。
- 昭和6年 現在地所在の成美高等女子学校を引継ぎ、附属高等女学校と改称し、新渡戸校長が兼任する。
- 昭和8年 新渡戸稲造校長逝去により、副校長森本厚吉二代校長に就任する。
- 昭和9年 東京都中野区の現在地に移転する。
- 昭和18年 地方学生のために東京都中野区桃園(現中野区中野3丁目)に学生寮を開設、桃園寮と命名する。
- 昭和19年 東京女子経済専門学校と改称し、経済科・保健科・育児科を設置する。
- 昭和21年 英文科を設置する。附属幼稚園を開設する。
- 昭和22年 学制改革により、附属高女は東京経専中学校および同高等学校に分かれ、校長に森本厚吉が就任する。
- 昭和23年 東京経専小学校を開設し、校長に森本厚吉が就任する。
- 昭和25年 森本厚吉校長が逝去したため、森本静子が校長・園長に就任し、橋本寛敏が理事長に就任する。
東京文化短期大学(家政科)を設置し、学長に森本静子が就任する。東京経専高等学校・同中学校・同小学校・同幼稚園を東京文化高等学校・同中学校・同小学校・同幼稚園と改称する。児童研究所を新たに設置する。
- 昭和26年 学校法人東京文化学園を設立、理事長に橋本寛敏が就任する。従来の専門学校は発展的に解消する。
- 昭和27年 短期大学内に医学技術研究室を開設する。
- 昭和30年 東京文化医学技術学校を開設する。医学技術研究室は発展的に解消する。
- 昭和39年 森本武也が学長に就任し、森本静子は学園長に就任する。浅間高原寮を長野県御代田町に開設する。
- 昭和46年 任期満了のため橋本寛敏理事長が辞任し、大浜英子理事が理事長に就任する。
医学博士松本光が副学長に就任する。
- 昭和47年 医学技術学校校長に医学博士守屋博が就任する。
- 昭和49年 幼稚園長・小学校長に鈴木光雄が、中学校長・高等学校長に土居孝輔が就任。理事長に大久保安威理事が就任する。
- 昭和51年 50周年記念事業の一貫として杉並区和田1丁目に約千坪の校地を購入する。
東京文化医学技術専門学校臨床検査学科と改称。
- 昭和52年 創立50周年記念式典を挙行。東京文化学園五十年史刊行
- 昭和53年 幼稚園長・小学校長鈴木光雄の逝去により、幼稚園長に森本光生が就任し、小学校長に永山義夫が就任する。
- 昭和54年 幼稚園・小学校新校舎が、杉並区和田1丁目に竣工し、二学期から授業開始。
- 昭和56年 医学技術専門学校校長に福岡良男医学博士が就任2, 4, 7号館とこわし、跡地に体育館建築。東グラウンド整備。
創立50周年記念事業を完遂。9月より使用。
- 昭和57年 小学校長に橋本正礼が就任する。

昭和二年に女子文化高等学院として創立した東京文化学園は、十五年を経て全国の卒業生は一万六千人余りとなりました。社会に貢献される卒業生の活躍をみると、創立者森本厚吉先生、初代校長新渡戸稲造先生の3日の教育精神が各所で生かされていくのが感じられます。

卒業生のお子さんやお孫さん方が母校に入学され、伝統ある校風を学ばれる姿を拝見することも、学園にとって力強く感じられ、新



学務理事
森本武也

卒業生の皆さんへ

時代在即した教育をもって皆様のご信頼にこたえるよう努力してまいります。

創立五十周年記念事業は、皆様を思い、創立六十周年を記念する事業を行います。

同窓会の皆様には、学園祭、総会、クラス会などの折に学園に来ていただきありがとうございます。昨年から訪問したり、支部長の皆様にご案内をさせていただきます。

皆様のご支援をお願い申し上げます。

東京文化学園 案内請求券 (同窓会)

この請求券を切りとって同封した場合、学校案内は無料になります。
必要とされる学校名に○印をおつけ下さい。

短大・医技・高校・中学校・小学校・幼稚園

短期大学

五十六年度進路状況 不調の業界に98%進出

―待機の栄養士を除く―

○進路対策者 二五〇名
 ○各種・専門学校進出 七名
 ○家事・家業従事 十五名
 ○就職希望者 二二九名
 ○就職内定者(3月11日)二二三名

五十六年度の求人状況は、景気の横這いが反映されて5%減であった。指導と斡旋の役割を持つ学生課として五月中旬より一カ月かけての二年次生全員の個人面接を行い、就職希望は別表のように在籍の九一%で、前年より六%増とわかった。そこで七月に対策の練り直しを行い、毎月のガイダンスに加えて、予算ぎりぎり教育機

器の活用を図り、受験・入社心得や面接の受け方の啓蒙に努めた。就職協定について「協定違反」の著しさに労働省が手を引くことかテレビ、新聞などで騒がれた。本学生も企業にふりまわされていたが、目前の学生の希望を叶えさせることを優先にことを進めた。

自由応募の増加が目立ち、学校推薦と自由応募と平行して試験する著名な企業もふえ、本人の実力が求められてきた。一方、「縁故」は前年より増減の企業が多くなり学生自身力闘していた。二月に内定が九一%だったが、女子短大の

場合には三月にも試験のチャンスがあり九八%にこぎつけられた。残りの二%は、栄養士希望で五月の面接、校外実習後も一貫して待機し、前年より三%増である。ただ就職先として学校、保育園などを考え、病院や事業所の希望が薄いことが気になる。欠員募集が八月の休みに学生課に飛びこんでくることがあるので、学生と連絡できるようにしている。あせらず待機は結構であるが、何時求人があるかわからないので、専門の自主研鑽を怠らないよう指導している。

地方Uターンの希望は夏休みを利用して、母校・同窓生や企業を訪問しているが、狭き門で二月で四五%の内定であった。景気がよくないので採用手控えの傾向が強くなっている反面、年ごとに就職希望がふえている現実が目覚めて欲しい。企業の人気とか尺度で仕事を選ぶ前に、「何故働くのか」を自分なりの信条をもち、就職に直結すると考えられることには个性的に精進して欲しい。女子にありがちな甘え、曖昧な姿勢を切り換えよと警告したい。(文責桜庭)

○製造業 日本鋼管・富士通・日清製粉・松下通信工業・本田技研・丸紅紙業・藤倉電線・パイロット万年筆・日本農業
 ○電気 日本電気・鴻池組・日本電建
 ○建設 東佑興業・大成建設・浅沼組
 ○機械 渋谷工業・日立計測器・小野田セメント・九州石油・東京西コクヨ・神綱電気・日本板ガラス・西部石油
 ○商社系(百貨店) 金商又一・帝人商事・弘栄貿易・藤本産業・伊勢丹・三越・高島屋・東急・松屋・新日本ビディ・生堂・八重洲商工・山本商会・岡地・仁木島商事・平和物産・トヨタ東京カローラ・ベア

募集要項

○サービス業 三井倉庫・タイヨ
 ○金融業 日本興銀・第一勧銀・協和・住友・羽後・農林中金
 ○証券・保険 野村・大和・成
 ○その他 全農協・ぎょうせい・大竹家政学院・心臓血管研・慈恵医大第三・大原料理教室

募集人員 家政学科一五〇名
 応募資格 高等学校卒業業者、または本学でそれと同等以上の学力を有すると認められた者

出願書類
 1 入学志望願書
 2 最終出身学校の報告書(調査書)
 3 健康診断書(調査書の「担当学校医所見」が得られない場合のみ)
 4 推薦書(推薦入学を希望する者のみ)

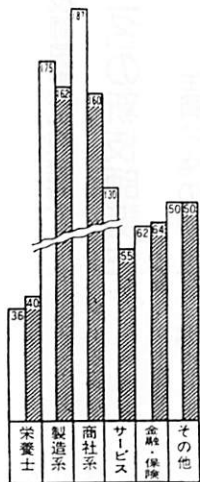
出願方法 以上の三(または四)種類の書類に入学選考料一五、〇〇〇円を添えて教務課に提出(郵送可)

試験科目
 ◎食物・栄養コース
 ・国語(現代)・英語・理科
 (生物IおよびII・化学IおよびIIより一科目選択)・面接
 ◎教養・教職コース
 ・国語(現代)・英語・理科
 (生物IおよびII・化学IおよびII)または社会(倫社・政経)より一科目選択・面接

出願期 日
 A 推薦入学
 B 書類選考
 第1期 11月15日~12月18日
 第2期 1月17日~2月28日
 C 筆記試験 2月21日~3月5日
 筆記試験日 3月8日
 (詳しくは入学案内参照)

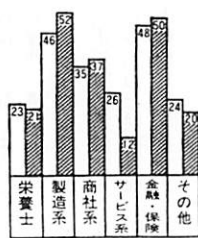
2年間の就職状況の動向

業種別求人企業数 649社
 491社



昭和55年度 昭和56年度 2月17日現在

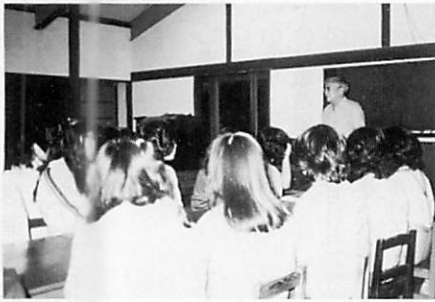
就職希望者 210名 85%
 202名 91%
 就職内定者 198名 93%
 192名 83%



○栄養士 横浜料理学園・大日本給食・大月給食センター・山脇学園寮・松原保育園・弘進会船橋病院・環境管理センター
 ○その他 全農協・ぎょうせい・大竹家政学院・心臓血管研・慈恵医大第三・大原料理教室

○製造業 日本鋼管・富士通・日清製粉・松下通信工業・本田技研・丸紅紙業・藤倉電線・パイロット万年筆・日本農業
 ○電気 日本電気・鴻池組・日本電建
 ○建設 東佑興業・大成建設・浅沼組
 ○機械 渋谷工業・日立計測器・小野田セメント・九州石油・東京西コクヨ・神綱電気・日本板ガラス・西部石油
 ○商社系(百貨店) 金商又一・帝人商事・弘栄貿易・藤本産業・伊勢丹・三越・高島屋・東急・松屋・新日本ビディ・生堂・八重洲商工・山本商会・岡地・仁木島商事・平和物産・トヨタ東京カローラ・ベア

○サービス業 三井倉庫・タイヨ
 ○金融業 日本興銀・第一勧銀・協和・住友・羽後・農林中金
 ○証券・保険 野村・大和・成
 ○その他 全農協・ぎょうせい・大竹家政学院・心臓血管研・慈恵医大第三・大原料理教室



検査技師への道をめざして夏季宿舎
講師は福岡校長

臨床検査技師国家試験発表 六十三名の新技師誕生

—全員合格の知らせに沸く—

医学技術専門学校

去る三月十日、医技第三十期生六十三名はめでたく卒業式を迎え夫々の就職先へ巣立って行った。毎年卒業に際し三年間の皆勤、精進者には賞状が授与されるが今回は皆勤賞九名、精進賞八名と今までの最高的人数であった。この皆勤とは三年間無遅刻、無欠席の者、精進とは三年間に欠席一日のみまたは遅刻三回以内の者である。医技の三年間の学習は専門家になるための大変ハードなカリキュラムであり、病院実習の時には早朝から勤務しなければならぬようなこともある中で皆勤、精進をなしたことは並々ならぬ努力のたまものである。この気力と健康は検査技師として大切な宝となるであろう。

三月十四日には臨床検査技師国家試験が行われ、四月末の発表の日までそれぞれ不安な気持ちを抱いて待っていたことだろうが、今年はめでたく全員合格という晴れど、学校としてもこの上もない喜びである。これで六十三名の新技師が誕生したわけである。一方四月には新しく検査技師の道に志を建てた五十五名の新入生を迎え、活気にあふれて新年度の授業が進められている。三年間のうちには種々苦しいこともあり壁にぶつかるところもあるだろう。しかし一旦志をたてた道である目標に向ってたゆまず、くじけず努力をつみ重ね目的に到達すれば苦しみも喜び

となるであろう。資格を取らなければただの人、合格すれば「検査技師」として思う存分活躍の場が得られるのである。今年に引き続き来年も、また次の年も百合格を目指して各自健闘することを、あらためて自覚して頂きたい。

長に就任し、その責任の重大さを改めて痛感しております。日本の臨床検査技師教育には厳しさとヒューマンイズムがたりないといわれています。欧米の臨床検査技師学校の教育を視察してみても、母校の一層の飛躍のためにご協力くださるようお願い申し上げます。

医技卒業生の皆さん 学会で集いましょう

会場に貼り紙の掲示とスライドでお知らせするようにいたします。さしあたり春の技師学会と秋の臨床病理学会で計画する予定です。開催地の方はよろしく御協力下さい。

創立三十周年記念式典

医学技術専門学校の創立三十周年式典は、十一月二十七日に学園体育館で催されることになりました。

近代医療をになつて

発展する臨床検査

校長 福岡 良男

東京文化医学技術専門学校は医学技術研究室として発足して以来三十年というわが国の検査技師養成施設のうちでもっとも古い歴史をもった学校であり、常に指導的地位をしめてきました。このような光輝ある歴史を持った学校の校

このような近代化に対応できるような技師教育を行いたいと思っています。今後出来る限り皆さんとコンタクトできる機会をも

— 学生募集要項 —

修業年限	3カ年	
募集人員	70人(女子)	
入学資格	高卒、(又は高卒以上の学歴を有すると認めた者)	
出願書類	入学願書、出身校の調査書、健康診断書、出身校長の推薦書(推薦入学志願者)入学選考料をそえる。	
入学選考A (推薦入学)		
願書受付日	面接日	合格発表
昭和57年11月8日より	57年12月6日	57年12月8日
昭和57年11月30日まで	必着	
書類合格者には、電報で面接時間を通知		
入学選考B (試験入学)		
願書受付日	試験日	合格発表
昭和58年1月10日より	58年2月15日	58年2月16日
同 2月5日まで	筆記試験	
試験科目	英語B、化学I、II、および物理Iまたは生物IIのうち1科目選択 計3科目および面接	

自分のために自分で学ぶ

—五日制の実施—

中学校も高等学校も 相変らず おります。三日精神や「真理は汝を自由にする。」に沿った人格教育を旨とし、習の習間化を図ることとしそれに受験本位の詰め込み主義をとりません。生涯教育時代に対応して、基礎となる学力の養成に努力し、自分のために自分から学ぶ姿勢の養成につとめています。

その一環として五日制を実施しました。毎週土曜日は、自主学習の日として中、高学年別にテーマを設定し継続的な学習を行なうのを全部吸収する。まずお母さん

朝早くから起き、お母さんがふだんやっていることを全く自分でする。お母さんがもっておられるものを全部吸収する。まずお母さん

あずけて心配のない

学校として

中 学校長 土居孝輔
高等

同窓会の皆様、常日頃なにかとお世話になっております。

お陰で五十周年記念事業により学園の教育環境が年ごとによくなり、生徒達の学力、行動共に向上して参りました。

今後とも建学の精神に則り古き、良き、伝統を守り育ててゆく決意であります。

最近卒業生の縁者、親族の方々の入学者や、御紹介による入学希望者がとみに増えて参りました。本当に有難いことと感謝致しております。

皆様の御期待に答えて、あずけて心配のない学校へと努力してゆくつもりです。

皆様の益々の御協力をお願い致します。

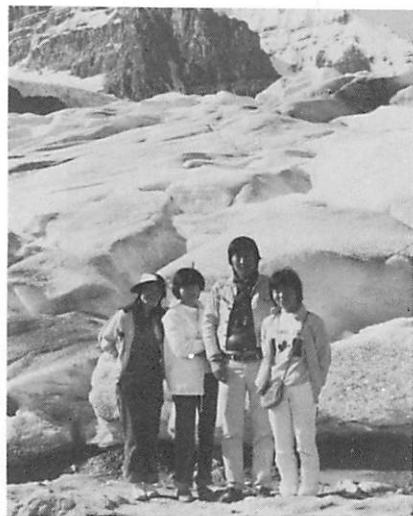
から学びましょうというわけですが、高二になると自主履習の目安として、各教科毎に課題のヒントが出される。それを選択して各自の年間学習とする。高三になると高二の学習を更に継続してもよいし、また進路にそってその学習をするもよし。全学年とも土曜カードを提出する。というスタイルで二年目を迎えております。

清潔・端正・品位

—東京文化はあなた自身—

中、高の前身附属高女開設以来

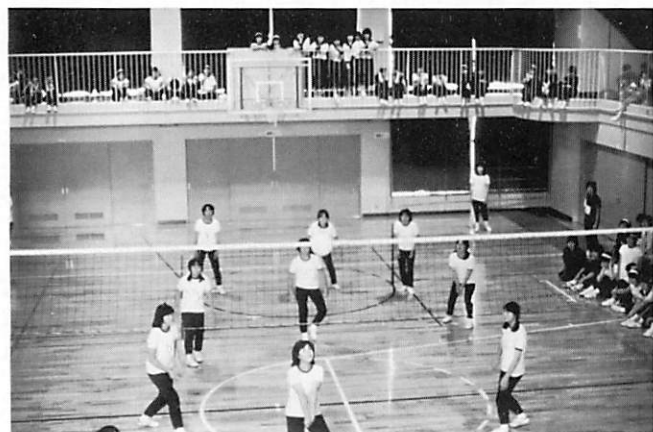
連綿と続いているこのえんじのセンターは、制服是非論が間欠的にまきおこる中で、いつも好評をうけ、かつて先輩が着たと同じ制服を誇りをもって着ております。清潔・端正・品位を旨として、制服姿は本人及び学校を悟るものとして正しく着用することを指導して



います。髪型、携行品その他きめ細かなルールがありますが、それらの遵守については「東京文化はあなた自身です。」とのかけ声のもと、生徒の自律を呼びかけています。おかげ様で、登校拒否も非行もない「きびしくて楽しい学校」として定評を長いています。

行動は「人間形成」を主眼とするこの学校においては極めて重要な教育の機会になっています。特に団体訓練、創造力、協調と協力精神など貴重な体験を積ませます。

入学式・オリエンテーションの後、新しい学校づくりを軌道に乗せる一つの契機となるのが球技大会で、新装なった体育館で生徒職員が自



らスポーツに親しみ、併せて学級学年、全校の親睦と団結を図ります。中間試験を終えると、芸術教育の一環として舞台鑑賞を行います。本校では他に二学期には芸術鑑賞を、三学期には音楽鑑賞を行なって、より優れた生の芸術に触れさせ情操教育の一環としています。

夏休みを前に氾濫する情報の中で正しい性知識を考えさせるための性講話が企画されます。進路指導諸行事もこの頃がピークを迎えます。

中一は学園の浅間高原寮で、中

二・三は会津磐梯、高一は富士周
辺で夏期学校を開き、恵まれた自
然環境の中で規律ある集団生活を
行ないます。クラブ合宿も浅間高
原寮及びその周辺で行ないます。
海外生活を体験することにより、
国際的視野をひろめる。
ため、高校生希望者
により、海外研修旅行を
行なっています。初代
校長ゆかりの地として
カナダを選び、大学の
宿舎で初歩の会話を学
び、ホームステイを行
ない、カナディアンロッ
キーの雄大な姿、美し
い街づくりを見聞しな
がらロス、ハワイに立
ち寄り、約三週間の旅
を終ります。

で優勝が競われます。
合唱コンクールも同じように学
級を単位とし、中高全員が参加し
ます。自由曲は学級で自主的に選
曲し、指揮、伴奏、共に学級内で

選ばれます。音楽科教員、音楽を
専攻する卒業生らが審査員になり

成績が決まります。
両者とも学校内の団結と創意、熱
意がものをいう行事なので歌い合
わせ、おどり合せることから協調
の精神が培われ、他人を尊重する
心が養成されます。

をめぐえぬ心の通った雰囲気は東
京文化ファミリーならではのもの
といえましよう。

かるた会



熱演する発表者



創作舞踊

二期期は、創作舞踊
発表会、合唱コンク
ール、学園祭、修学旅行
な大きな行事の他、水
泳教室や英語暗唱大会
など教科的行事もあり
多彩です。
創作舞踊発表会は体
育授業の成果の発表の
一つとして行ない、学
年の規定に基づき、選
曲振りつけ、手具の選
択から若干の体育着の
装飾などすべて学級討
議を経て自主的に創作
され、生徒による審判



バタフライの練習

中学 水泳教室

学園祭は授業の会部門、展示催
物部門に分かれ、中高ではおまつ
りとしてではなく、日常の教育活
動つまり授業ホームルーム、クラ
ブ活動の成果を発表する場として、
学組選出の実行委員の手によって
運営されます。学園祭のあと修学
旅行が行なわれ、中二は京都、奈
良、高二は九州地方、同じころ高
三は卒業旅行(一泊)を行います。
修学旅行のあと学園は静けさをと
り戻し、ひたすら学習に励むこと
になります。

二期期は、この他中学の水泳教
室、中・高の英語暗唱大会、美術
鑑賞が組み込まれます。またウイ
ンタースポーツとして、希望者
によるスキースクールが、開かれ
ると、二期期の幕が降ります。

三期期はかるた会が作法室で開
かれます。かるた会を通して古典
に親しみ日本古来の遊戯を理解す
る一助として人気のある行事の一
つです。

高校の卒業式は二月、中学は三
月に行います。伝統的な形式によ
り、厳しゆくさをのこしながらも
「卒業は始業なり」とい創立者の
言葉のように、果立ちゆく若人の
前途を祝福しつつ、なお惜別の情

父母会バザー会場風景





東京文化小学校の

校長に就任して

橋本正礼

立教大学を卒業してから三十一年、立教女学院および立教学院の小学校の教師として、立教ひと筋に生きてきた私が、思いもかけぬ神のお導きによって東京文化小学校の校長に就任してから、早くも半年が過ぎました。

男子ばかり七百二十名の大きな学校から、男女合わせて百八十名の小さな学校に移った当初は、何かと戸惑いを感じた事もありましたが、この半年の学校生活と、浅間や薬科の高原学校や夏期特別学習を通して、自分では、ずいぶん東京文化学園の教師らしくなったように思っています。

亡くなられた鈴木光雄元校長先生は、お元気だった頃、私立学校文化小学校のお話を聞かせてくださいました。東京文化小学校では先生も生徒も朝早く学校に来てよく遊ぶ事。校長も先生たちも、学校中の全部の子どもの名前や性質を知っている事。上級生と下級生とが兄弟のように仲良く遊んだり協力したりする事。低学年にはクラス担任の他にもう一人副担任をつけて行き届いた指導をしている

時、遠足や高原学校の時など、折にふれて上級生がたて割りグループのリーダーになって下級生の面倒をみたり、手をつないで歩いたりするのです。休み時間には、何学年もの子どもが混ざり合って遊んでいるのです。

この東高円寺に、キリスト教の精神を教育の基盤とすること、なすばらしい学校があることを、私はもともと多くの人に知ってもらおうように努力したいと思っています。

粘土で作る喜び

土を知っている人は三人だけでした。入学前は、油ねんどや紙ねんど、プラ粘土などで遊んでいたのでしょう。

においをかいで「ごらん？これが土のにおいよ、指で押してみても、あながあいた？ぎゅっとにぎってごらん冷たいでしょ、このねんどは生きているのよ。」

粘土のとりこ

はじめは、黒くて生まの臭いのする粘土にまごついたたり、手をつかねている子どもたちも、こねたり、ちぎったりしていくうちに肌ざわりのよさや、自由に形がかわる可塑性にだんだん引きこまれていきます。

水をつけてベタベタさせたり、おだんごをついたり、穴をあけたりして、いるうちに夢中になって、もう粘土のとりこになってしまっています。粘土をいじっている時の子どもたちの生き生きとした姿は感動的です。やがてうまく扱えるようになって、人や動物も作れるようになります。

心と腕

粘土で様々なものをつくっているうちに、自分の気持でどんな形にでもなる。また反対になかなか思うようにならないことに気づくでしょう。だからこそ何かを作りたいという気持が際限もなくわいてくるのです。

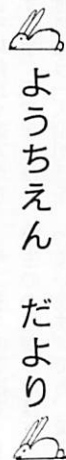
柔らかい粘土は、その内部にどんな形にでもなるあらゆる可能性を秘めていて、それを引き出すのは、扱かう人の心と腕にかかわっているのです。粘土のもつ生命のようなものを感じとってほしいと思っています。

新しい校舎ができた時に、東京文化小学校のお母様から、やきもの窯、電動ろくろ、その他の設備をご寄贈いただきました。それで今ではやきものをつくることに、子どもたちも私も大きな喜びを感じています。

昭和五十八年度 織児童募集

- 入学説明会・公開授業 九月十七日、十月十七日
- 願書受付 十月二〇日、十一月十六日
- 入学テスト 十一月十七日
- 合格発表 十一月十八日
- 新一年生を、男女四十名募集します。
- 幼稚園長の推薦による優先入学の制度があります。現一、二、三、四年生若干名、補欠受け付けます。
- 学校案内を配布中です(無料)

東京文化小学校



まち遠くは月曜日

額谷先生の体育指導始まる

五月から本学園短大の額谷修二先生にお願いして、毎週月曜日、年長組体育指導をしていただくことになりました。第一日目、逆立ち、前転、熊歩きと、文字どおり息つく間もない程動き続けることを初めて経験した子ども達でしたが、誰も彼も「楽しかった。」の連発、「疲れた」とか、「暑い」などの言葉は一つとして聞かれませんでした。力いっぱい動いて流した汗のさわやかさを一人一人がからだでわかったのでしょう。その日以来、月曜日は年長児にとって、待ちどおしい日になりました。

楽しいクッキーづくり

今年度も短大の中川悦教授をはじめ、助手の先生方が子ども達の料理実習を指導して下さいます。

五月二十日が楽しみにしていたその一回目でした。次の日の朝、Aちゃんの連絡帳には、お母様からの次のようなおたよりが書いてありました。

「帰る道みち、クッキーづくりのことを話してくれました。小麦粉を入れたら固くなって、かきまわすのが大変だったこと、Aの調理の担当の先生が一番若かったこと、こんがりという色に焼けて、とてもいい匂いがしたこと、焼き上ってしばらくするとパリッとなることなど。」

額谷先生は「幼児期にからだを思いきり動かすことを皆が好きになればいい。子ども達は、本来、誰でもからだを動かして遊ぶことが好きなのだから——」と言われました。そのお言葉を裏書きするように、今までおへやの中で遊ぶことの多かったTちゃんも、毎日のように鉄棒や雲梯に挑戦して

子どもの自殺、家庭内暴力、登校拒否など、子どもの教育をめぐる諸問題が、新聞の社会面ににぎわしている昨今です。

子どもの教育相談室

東京文化幼稚園では、一人一人のお子さまの健全な成長を願い、少しでもお母様方のよき相談相手になりたいと、子どもの問題では第一人者の石井哲夫先生に御協力頂いて、九月より、「子どもの教育相談室」を開設しました。

石井哲夫先生は、日本社会事業大学の教授で、子どもの生活研究所の所長でいらっしゃいます。「子どもを大切にしよう」ということは、よく子どもをわかってあげることです。そして、子どもと一緒に遊んだり、考えたり、喜んだり、悲しんだりできるようにすることです。「子どもが幸せになる」ということは、「子どもの発達がぐんぐん進んでいる」ということです。

お子さまの発達が順調かどうか確かめたい方、知能テスト、心理テストの測定をご希望の方、どうぞお気軽に、相談にいらして下さい。

相談日は、毎週水曜日午前九時

三十分から午後四時までで、お一人の所要時間は、約一時間三十分です。相談には、子どもの生活研究所・すこやか学園園長の小野双葉先生があたられます。予約により相談いたしますので、幼稚園(電話三八一・一一八三)までお申し込み下さい。相談料は三千元です。

トンボを追いかけていたN君「とった、とった。かごをもってきて」かごをもっているM子ちゃんは大忙がし。「あつ、てんとり虫。」虫の嫌いだつたA子ちゃんも虫とりに夢中です。園長先生も広いグラウンドで、相撲のお相手に大わらわ。素敵な夕食のあとはお風呂。大きな湯がねで大はしゆぎ。お家へ手紙を書き、寝る準備をして「おやすみなさい」。



二日目は牧場へピクニック。牧場には兎、牛、山羊がいる。はじめは恐がっていた子供たちも、草をあげているうちに頭をなでたりできるように大喜びです。あたりが薄暗くなるとキャンプファイヤー。明るく燃える炎をかこんで、アコーデオンにあわせて踊ったり、肩をくんで歌ったり、みんな元気に今年も楽しい宿泊泊育を終りました。

涼しい浅間高原へ
元気いっぱい虫とり

昭和五十八年度 園児募集
入園説明会 10月14日、10月20日
願書受付 11月1日〜4日

入園児諸検査 11月5日

三才児男女10名、四才児男女40名を募集します。

幼稚園案内を配布中です。(無料)
東京文化幼稚園

理事会のつぎ

昭和五十六年度
第四回理事会
十月十四日(水) 学園にて

- 一、総会反省
- 二、学園祭について
- 三、観劇会について
- 第五回理事会
十二月九日(水) 大原会館にて
- 一、学園祭売店報告 反省
- 二、同窓会会費及び入会式について

- 三、愛知支部副支部長選任の件
第六回理事会
三月十六日(火) 学園にて
- 一、昭和五十七年度予算及び五十六年度決算について
- 二、観劇会について
- 三、昭和五十七年度第一回幹事会

年会費納入お礼とお願い

一昨年卒後十年以上経過した会員に、千円の年会費をお願いしておりますが、五十五年度には七〇三、〇〇〇円、五十六年度は一、三三九、〇〇〇円の納入をいただきました。

おかげさまで、名簿整理にコンピュータ・システムの導入ができ、昨年の「泉」の発送から「宛名ラベル」の使用を始めることができ、発送事務の合理化に大きく

について
昭和五十七年度
第一回幹事会
四月十六日(金) 学園にて

- 一、昭和五十六年度決算報告
- 二、昭和五十七年度予算案について

- 第一回理事会
五月十二日(水) 学園にて
- 一、観劇会について
- 二、入会金名称変更について
- 三、卒業記念品について
- 第二回理事会
六月二十四日(木) 学園にて

- 一、観劇会について
- 二、卒業記念品について
- 三、同窓会館建設計画について
- 第三回理事会
九月十七日(金) 学園にて
- 一、卒業記念品について
- 二、学園祭参加について
- 三、同窓会館建設計画について

お礼とお願い

今年も昭和四十七年三月以前の卒業の方への「泉」に会費の振込用紙を同封いたします。(四十八年三月以降卒業の方には振込用紙はお送りしません。)

なお、これまでに三年分以上をまとめてお払いいただいた方にも事務の都合上、会費の振込用紙が同封されることがありますので、ご了承ください。

I 一般会計収支決算及び予算

	昭和57年度		
	予算	決算	予算
収			
1 会費収入	3,354,000	3,354,000	3,270,000
2 受取利息	350,000	503,436	400,000
3 雑収入	-	23,865	-
4 年会費	500,000	1,339,000	800,000
5 前年度より繰越金	614,916	614,916	622,256
6 建設準備金	-	-	884,000
合計	4,818,916	5,835,217	5,976,256
支			
1 通信費	80,000	86,038	100,000
2 印刷費	80,000	55,200	80,000
3 会費	300,000	257,919	300,000
4 事務費	30,000	15,355	30,000
5 会費会計へ繰入	1,000,000	1,000,000	1,200,000
6 交際費	50,000	19,000	130,000
7 慶弔費	80,000	173,950	-
8 支部費	90,000	60,500	80,000
9 総会計へ繰入	350,000	350,000	300,000
10 部会活動費	300,000	250,000	300,000
11 入会記念品費	160,000	140,300	160,000
12 役員交通費	160,000	171,000	180,000
13 人件費	500,000	500,000	500,000
14 名簿部へ繰入	600,000	1,100,000	1,000,000
15 別途積立金	1,000,000	1,000,000	700,000
16 予備費	28,916	28,916	32,256
17 雑費	10,000	4,783	-
18 建設準備金	-	-	884,000
19 次年度へ繰越	0	622,256	0
合計	4,818,916	5,835,217	5,976,256

II 入会費内訳

昭和56年度	
小	@ 5,000 × 44 = 220,000円
高	@ 5,000 × 244 = 1,220,000円
既	@ 6,000 × 71 = 426,000円
短	@ 6,000 × 248 = 1,488,000円
合計	3,354,000円
昭和57年度	
小	@ 5,000 × 26 = 130,000円
高	@ 5,000 × 244 = 1,220,000円
既	@ 6,000 × 68 = 408,000円
短	@ 6,000 × 252 = 1,512,000円
合計	3,270,000円

IV 資産残高

1. 一般会計	
定期預金	9,075,505円
同値	2,500,000円
同校	1,200,000円
2. 事業部	
定期預金	5,829,694円
販売品在庫	611,470円
現金	194,367円
3. 名簿部	
定期預金	1,427,448円
現金	162,560円
4. 会報発行部	
現金	338,072円

(昭和57年3月31日現在)

III 建設準備金内訳

昭和57年度	
高	@ 1,000 × 244 = 244,000円
既	@ 2,000 × 68 = 136,000円
短	@ 2,000 × 252 = 504,000円
合計	884,000円

新名簿発行

同窓会名簿は昭和五十二年以来作られておりませんが、昨年からコンピュータを使用して名簿整理を行って、新名簿発行の準備をはじめました。当初の計画では今

年の六月頃に発行する予定でしたが、コンピュータへの切替作業に手間取り、発行が遅れてしまいました。遅くとも年内には発行しようとしております。

新名簿は役員や各支部などにお配りいたしますが、ご希望の方には年費で次のとおりお分けいたします。

ます。

全同窓生名簿 三千元

学校別同窓生名簿 千円

郵送の場合は荷造送料実費をご負担願います

新名簿については、十二月以降本会あてにお問合せください。

編集後記

「泉」の新体裁

この第二十一号の「泉」から従来のタブロイド判をやめ、A4版の新しいスタイルになりました。母校の「東京文化タイムス」と同じ体裁で、従来のものに比べて保存しやすくなり、発送の手間も一段と少なくなりました。

印刷方法も、従来の写植・オフセット印刷から、ワードプロセッサで入力して編集し、活字出力してオフセット印刷する方式に変更しました。

これは、篠塚印刷株式会社と話し合い、新しい印刷方法の開発を兼ねて「泉」の発行をしようということになったものです。写植に比べて文章の追加、変更、削除がしやすくなっています。

「泉」の内容その他についてのご意見やご希望などを編集委員会あてに是非お送りください。